

●2018 年度木津川河川レンジャー2 名誕生

大釜智光さん（木津川市在住）山村さん（八幡市在住）に採用通知が届く。2017 年度で現役河川レンジャーは中西佳代さんと村上ゆいさんの二人になりました。今年の 3 月で山田さん田中さんが任期満了で退任されました。なんとしても男性の誕生をと期待をしていました。発見講座への出席に引き続き養成講座を 3 日間の出席し、体験と新知識やワークショップをこなし、最後の難関 9 月 4 日のプレゼンテーションを行って、審査委員約 20 名からの質問に答えて、審査委員から採用認定通知が届きました。期待していた通り、男性レンジャー2 名の誕生に漕ぎつけることが出来ました。これで 4 人体制が実現して活躍が期待できます。子供さんたちへの歴史や自然体験・文化面からを切り口にする大釜さん、そして現役時代の地域の植物への興味を生かして、植物関係の活動が得意とされている山村さんなど、お二人の得手を生かした活動に期待が高まっています。事務局会議で山田さんからの報告に大きな拍手で喜び合いました。

任命式は 10 月 16 日（火曜日）14 時から運営委員会の場で伝達されます。ここには山城地域の宇治市や城陽市等各自治体からの代表者が集まります。河川活動や、地域活動の有識者や運営委員、アドバイザーの出席のもとで、任命書が渡され、紹介と挨拶が行われます。お二人のご活躍に期待しています。お二人は高校の教師や小学校の先生を経験されている非常に有能な活動家です。

●竹蛇籠の製作と中聖牛の設置作業日程が固まる

2018 年度の取組として 3 基の中聖牛の設置を行ないます。その取り組み日程が確定しました。蛇籠周辺の生き物調査を 10 月 6 日（土）に、そして蛇籠製作講習会を 7 日 8 日の二日間開催します。以上二つの取組の集合場所は玉水橋の東詰め広場で行います。時間はいずれも 9 時 30 分集合としています。そのほか中聖牛の設置予定日は 12 月 2 日、玉石入れはこの日から蛇籠に投入予定です。完成予定日を 12 月 15 日にしました。いずれも、あくまでも予定でありまして、雨天や増水気候編によって日程の変更は生じると思います。その都度週刊ニュースに注意を払ってください。

●竹蛇籠の製作

淡竹で製作できないか 2 度目の挑戦 10 日（月）9 時から 12 時まで 有田、福井、深田、有田、播川、大村、山村 7 名参加。本格的に蛇籠の編成を開始するまでに、淡竹での制作が不可能といわれていたもので、再度挑戦しました。10 日の 9 時に 7 名が集まり、この日のために考えてきた方法を用いて挑みました。1 組目は悪戦苦闘でしたが、20 分間で、だめは大きく残りましたが、基本的な手順通り整えることが出来ました。二組目は 2 回目を使いましてでしたので、基本的なところを通過したところで竹が折れてしまい、補修補強を行いましたが、進めることが出来ませんでした。この日の結果から、やはり淡竹での蛇籠編みは不可能であることがハッキリ証明されました。前回の結論と同じく、粘り強さでは真竹が大きく勝っていることも分かりました。そして幅は 4.5 cm 以下で揃えた素材を使用することも大事なポイントであることも確認しました。

●上粕川クリーン作戦 8 日 雨模様の中実施 39 名が集まる

今年で 12 回目となる福井レンジャーアドバイザーを中心とした取り組みです。これまで一緒に河に行ってきた小学生たち高学年になってクリン作戦に自主的に加わってくれるようになりました。そして図書はなかなか地域への理解と協力が難しかった取り組みでした、自主的に区長さんなどの参加があつて、随分と賑やかになり、根付いてきたものになりました。まさに継続は力なりを地で言った素晴らしいねばり強いイベントに育ってきました。

●里山農園 夏草が繁茂

9 号地と階段斜面の草刈りを深田さん。やっと天気が落ち着いてきたようです。さすがの猛暑も和らいで、過ごしやすくなってきました。北海道から届く気温は早くも一桁とのこと、地震被害者の厳しい一面が気になります。農園では勢いを増して雑草たちが競って育ちあってきました。里山農園もいよいよ稲刈りの時期を前にして今が種まきの時期であると同時に、雑草刈取りを早く行っていないと、除草に力が必要になり

ます。秋の草は厳しい冬に備えて茎が固くなり、葉も強くなるので、時期を逃すと体力的につらいものです。農園 19 号の田んぼとその畦の草刈りを実施しなければなりません。時間に余裕があれば 1 時間でも草刈りに出かけてください。農園には肩かけ草刈り機をいつでも動くように準備を整えて、皆さんのお越しをお待ちしています。

●里山農園 秋冬野菜種蒔 11 日 5 人が参加

10 日午後に実施。秋冬野菜の種まきの時期となりました。夏野菜は気候の変動もあって、不調でした。その取返しもあって、随分と氣の入った準備に見えます。11 日にベテラン 5 人が集まって大根やカブラやヒノナ、水菜を巻きました。特に今年はニンニクにも挑戦します。いい収穫が出来ればと胸が膨らみます。最初の 1 週間は水やりが大切で、種が気張って芽を出してくれるのが最もうれしいですね。何ごとでも初めが肝心です。昨年目出しが不調のものは新しい種屋さんで仕入れを行いました。目出しが済むとすぐ雑草が繁茂します。お手伝いにお越しくください。そしてできるだけ早く雑草を刈り取って、きれいな畑を維持することも大事な手入れでもあります。少し早いですが、展示発表会も回数が増えています、模擬店をさらに人気のあるものになればと思います。

●蛇籠製作の竹割と節落とし、幅精製作業の実施を

15 日（土）午前 9 時より開始。本格的な準備作業を 15 日 16 日 17 日の三日間連続して行ないます。均一な幅を持った竹を取り揃えられるか、蛇籠つくりの基本であるということがわかりました。淡竹に比べてしなやかで扱いやすく折れにくくて優れた素材が真竹です。この素材をきちんと揃えることが基本通りに行えば、素晴らしい製品が完成するものと思います。本格的に蛇籠に挑戦して 3 回目になります。腕によりをかけて頑張りましょう。さらに普及を目指すには、蛇籠の編み方を指導できるようにならなければ、いい川を作れないと親しみのある魚の棲み処を増やすという当初の目的には届かないかもしれません。

参加される皆さんも気楽にお立ち寄りください。肝心なことは一回ぐらいであきらめずに経験を積むことだと思います。数多くお越しくください。お待ちしております。今年も昨年と同様に 27 本を作りあげます。

●会誌 45 号の仲間の広場への投稿をお願いします

先の 44 号では 10 名 13 ページということで低調でした。この会誌の役割は仲間の広場で大いに交流を深めあい、情報提供を共有するところにあります。里山の会の機関誌として最も充実させなければならない部署です。お互いに年を取って今更文字を書くなんてとおっしゃる声をお聞きます。まだまだこれから 10 年 20 年くたばれませんよ、これまでは、そういうことが通用してきたかもしれません。しかし今は 100 歳の皆さんがわんさとおられるし、身近に生き生きとしておられます。そんなに早く老けてはなりません。こんな異常出来事が連続している時に一筆走らせなければと、気持ちを会誌に乗せてください。頑張っているところを 200 人の会員にその姿を発表して、元気を分け与えてください。投稿をお願いします。この間の自然現象の異常さは皆さんの人生では経験をしてこなかったことで想定を超える出来事だと思います。集中豪雨と被害、地震と山崩れ、猛暑と熱中症、人の命にかかわる出来事が連続しました。これらの出来事に心を痛められているのではないのでしょうか。これらをヒントに、またきっかけにして一筆お願いいたします。あなたのご投稿を心からお待ちしています。原稿締め切りは 9 月 20 日必着です。